



## 阿万バイパス(賀集〜北阿万) 開通

9月5日午後1時から

主要地方道洲本灘賀集線阿万バイパスの賀集〜北阿万



▲阿万バイパス

(二三五〇m)の区間が、九月五日午後一時から開通します。これにより平成十二年開通の北阿万〜阿万上町(二八〇〇m)の区間と合わせて賀集〜阿万上町までの交通アクセスが向上します。これまで阿万から国道二八号(神代国衙)までの区間は、人家が密集し、道幅が狭く歩道もないことから、朝夕の通勤通学時や観光シーズンには慢性的な交通混雑が発生しているほか、交通事故も多く発生していました。そこで、延

長約七・八kmのバイパスを計画し、工区を分割して早期開通に努めてきました。また、この開通により、十月開催の「のじぎく兵庫国体」相撲競技会場(文化体育館)へのメインアクセス道路として、全国から集う人々を温かく迎えることができるものと期待されています。なお、残る未開通区間(阿万東町〜上町、三〇五〇m)は平成十九年度の供用開始を目指して工事を進めています。

## ダムの役割に理解を深める

諭鶴羽ダムふれあいフェスタ

ダムの役割や自然環境について理解を深めてもらうと、小学生を対象とした「諭鶴羽ダムふれあいフェスタ」が七月二十八日、諭鶴羽ダム周辺で開催され、約三百人が参加しました。イベントでは、ダムに関するクイズに答えながらダム

内部や管理所、湖などを一時間かけて回るウォークラリーをメインに、うなぎのつかみ取りやヨーヨー釣りなども行われ、夏の日差しが降り注ぐ中、子どもたちは夢中になってゲームを楽しみました(十一頁に関連記事)。



▲ダム周辺を回る子どもたち

## 南淡コミュニティバス(灘・阿万線)のルート変更

十月一日から、「南淡コミュニティバス(灘・阿万線)」のルートが変更になります。時刻表・ルート図などの詳細については九月下旬の日刊新聞に折り込みます。市長公室 ☎43・5002

## 年金だより

### 20歳になったら国民年金

国民年金は、やがて訪れる長い老後や、突然の病気やケガなど生活の安定を損なうような「万が一」の事態に備え、保険料を出し合い、お互いを支えあう制度です。二十歳になったら、忘れずに国民年金の加入手続きをしましょう。

## 年金相談

- ▽手続き先 総合窓口センター
- ▽毎月の保険料 13860円(平成18年度)
- ▽保険料の納め方 「納付書」を持参のうえ、金融機関や郵便局、コンビニエンスストアで納付。
- ▽また、指定口座から自動的に引き落とされる「口座振替」もあり、便利です。所得が少ない方など保険料を納めるのが困難な方は、
- 「若年者納付猶予制度」や「学生納付特例制度」などの免除制度を利用することができます。
- ▽日時 10月6日(金) 午前11時〜午後3時
- ▽場所 南淡公民館
- ▽申込み 市民課 ☎43・5023

## 国際姉妹都市にホームステイ セライナでの体験を市長に報告



▲ホストファミリーとの記念写真

南あわじ市と国際姉妹都市提携を結ぶ、アメリカ合衆国オハイオ州セライナ市を訪れていた海外学生等派遣団十五人が帰国し八月十一日、中田勝久市長らにホームステイなどの体験を報告しました。平成八年に旧南淡町が国際姉妹都市提携を結び、以後毎年相互に学生を派遣して交流を深めてきました。この度は引率者三人と市内の中学校生十二人が、七月二十五日から八月六日までの間、セライ

ナ市でのホームステイ等を体験し、ウォルトディズニークエスト、ケネディスペースセンターなどを見学しました。学生らは「緊張したけど楽しい二週間、参加できてよかった」「ホストファミリーが温かく迎えてくれた」「親友ができた、もう一度会いたい」などと感想を報告しました。中田市長からは「若い人の純粋な気持ちに感激した。この体験は大きな宝物になるでしょう」と期待を込めました。

## 郷土芸能やスポーツを通じて交流

姉妹都市・友好都市との交流

志知高校の郷土芸能部と和太鼓同好会が南あわじ市と姉妹提携を結ぶ新ひだか町と友好提携を結ぶ平取町を訪問し、だんじり唄や創作曲を披露し交流を深めました。訪問を前にした七月二十六日には生徒の代表が中田市長を訪ね、「訪問先の北海道には淡路の血をひく人が大勢います。温かく歓迎してください。練習の成果を披露して、地域の方との交流を深めてください」

と激励を受けました。同校の二十三人は、七月二十七日から二泊三日の日程で両町の公民館を会場に、同部は「岸壁の母」を、同会は創作曲「志知永翔」を披露しました。また、八月四日から三泊四日の日程で、御原FCの選手、監督ら十六人が新ひだか町を訪問、同町少年サッカー大会に参加してスポーツ交流を深めました。



▲中田市長と握手を交わす雨堤奈津美・郷土芸能部長と前田次郎・和太鼓同好会代表

## ふれあい市長室 地域活動は助け合いで盛り上がる!

南あわじ市長 中田勝久

九月に入り、実りの秋を迎えますが、一方台風シーズンでもあり、心配も高まっております。「災害は忘れた頃にやってくる」とことわざにもありますが、最近はいつ、どんな所でも起こりうる自然災害をはじめ、事故、事件の発生に予断を許さない時代となつてまいりました。

そんな中、日夜、私達市民生活の安全・安心に尽力されておられるのが、自治消防団の皆様方です。心より感謝申し上げます。「備えあれば憂いなし」のように、市としても消防機器の整備に積極的に取り組んでおります。

さて、先般淡路消防操法大会があり、可搬式ポンプの部で賀集第一分団第一部、自動車ポンプの部で灘第二分団第二部が優勝し、淡路島代表として、県消防操法大会へ出場しました。非常に誇らしく思います。県大会では惜しくも入賞できませんでしたが、強い日差しの中汗のじんだ背中が胸を打ちました。号令によるきびきびした行動や操法演技に気持ち引き締まり

ます。各分団が長い期間をかけて練習に励み、先輩らが陰に日向に指導やお世話をし、強い責任感のもと懸命に取り組んでいることに感銘を受け、地域消防の礎と伝統の重さを痛感しております。十月二十二日には、南あわじ市防災訓練を予定しておりますが、多くの方が経験されたように、消防団員は、常に呼び出しに備え、迅速な対応ができるよう枕元にヘルメットやハッピーなどを準備し、気持ちを整えております。災害への対応は、消防団や市役所、警察だけでは限界があります。使命感の強い消防団員も自ら被災し、初動段階で迅速な対応が困難になる時もありますので、現在各自治会においております自主防災組織の設置が急務となっております。「逃げる・守る・助ける」の段取りや、大災害に對し命を守る備えを早急にお願いたします。また、大震災の教訓から県が設置した住宅再建共済制度(フェニックス共済)にもっともっとう加入をお願いいたします。